

科目ナンバリング実施のためのガイドライン

1. 科目ナンバリングとは

授業科目に適切な番号を付し分類することで、学修の段階や順序等を表し、教育課程の体系性を明示する仕組み。ナンバリング、コースナンバリングとも呼ばれます。

2. 科目ナンバリングを実施する意義

(1) 教育課程の順次性・体系性の明示

学生が、どの科目から学修していけば、体系的に学修することができるか分かるようになり、計画的な学修を実現できるようになります。

(2) 学部・大学院間を繋ぐ授業レベルの順次性・体系性の確保

学部・大学院を繋ぐ科目ナンバリングを付すことで、学部と大学院の授業のレベルを順次的・体系的に示すことができます。

(3) 国際的通用性の確保

海外大学とある程度の通用性のあるナンバリングコードを付与することにより、海外からの留学生や海外へ留学する日本人学生にとって、授業のレベルが分かりやすくなります。さらに、海外大学との単位互換が容易になることが期待されます。

(注) ナンバリングの形式は、国内だけでなく海外の大学を見ても大学毎に異なります。学問分野を示すコードを付与する例もありますが、共通するようなものではありません。

(4) 教育プログラムの点検・改善

ナンバリングを実施することにより、各学部・研究科等のディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに相応しい科目構成となっているか、分野に偏りが無いかなどについて、カリキュラム・マトリックスなどの作成により点検を行い、教育プログラムの改善を行う契機となります。

(5) 大学設置基準、外部評価（大学機関別認証評価等）、及び答申への対応

大学設置基準では、体系的に教育課程を編成することが規定されており、認証評価では自らの自己点検・評価により、教育課程の順次性・体系性を示すことが求められています。科目ナンバリングの実施、カリキュラム・マトリックス、カリキュラム・フローチャートの作成はこれらに対する根拠資料となります。

3. 体系的な教育課程を構築するための手順

(1) 大学の教育理念の確認

宮崎大学は、「世界を視野に、地域から始めよう」のスローガンのもとに、人類の英知の結晶としての学術・文化に関する知的遺産の継承と発展、深奥なる学理の探究、地球環境の保全と学際的な生命科学の創造を目指し、変動する社会の多様な要請に応え得る人材を育成することを教育の理念として掲げています。本学では、これらの理念を具現化するために、以下の教育目標を掲げ充実した教育に取り組んでいます。

1. 人間性の教育

・高い倫理性と責任感を育むとともに、幅広く深い教養と総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養する。

2. 社会性・国際性の教育

・地球規模の視野に立ち、社会の多様な要請に対応して、柔軟で論理的な思考力をもって、社会の発展に積極的に貢献できる社会性・国際性を涵養する。

3. 専門性の教育

・それぞれの専門分野に関する基礎的知識を修得し、それらを応用できる能力を育成するとともに、専門分野への深い興味を育み、課題探求及び解決能力、自発的に学習する能力を育成する。

(2) ディプロマ・ポリシーの策定

大学の教育・研究の基本理念に基づき、教育プログラム毎に策定します。策定にあたっては、以下の点に留意します。

- a. 「何ができるようになるか」に力点を置き、どのような学習成果を上げれば卒業を認定し、学位を授与するのかが具体的に示されていること
- b. 学生の学修の目標となっていること
- c. 学生の進路先等社会における顕在・潜在ニーズ

(3) カリキュラム・ポリシーの策定

ディプロマ・ポリシーを達成するための方針を明確かつ具体的に策定します。策定にあたっては、以下の点に留意します。

- a. 教育課程の編成の方針
- b. 教育課程における教育・学習方法に関する方針
- c. 学習成果の評価の方針

(4) 教育課程の体系性の点検

教育課程が順次性・体系性が確保されているかを点検するために、以下の具体的な作業を行います。

- a. カリキュラム・マトリックスの作成
- b. カリキュラム・フローチャートの作成
- c. 科目ナンバリングの付与

(5) 3 ポリシーに基づく教育の PDCA の稼働

3 ポリシーに基づく教育を実施し、点検・評価を通して改善を図る PDCA のサイクルを動かします。

4. 科目ナンバリングの付与

(1) 科目ナンバリング付与の原則

- a. 原則として、(カリキュラム) 科目に対して付与する。

(注) カリキュラム科目とは、教育課程を編成する科目で(科目とも呼ぶ)、年度毎に開講されるものを授業科目と呼ぶ。授業科目はクラス分けにより同じ学習目標及び内容を持ち複数開講されるものもある。

- b. 原則として、科目に固定したものとする。
- c. (カリキュラム) 科目と授業科目の対応が分かるようにする。

(2) 科目ナンバリングコードの形式

宮崎大学における科目ナンバリングコードの形式

A	B	—	1	—	2	3	4	5	—	XXXXXX
部局	学科等		学問分野		レベル	科目区分	授業形態	使用言語		講義コード
①	②		③		④	⑤	⑥	⑦		⑧

(3) コード表

①部局コード

学士課程：B、 修士課程：M、 博士課程：D、 別科：Z

学部・研究科等	コード
教育学部	B1
医学部	B2
工学部	B3
農学部	B4
地域資源創成学部	B5
教養教育部門	B0
畜産別科	Z0

学部・研究科等	コード
教育学研究科	M1
看護学研究科	M2
工学研究科	M3
農学研究科	M4
地域資源創成学研究科	M5
医学獣医学総合研究科	D1
農学工学総合研究科	D2

②学科等コード

カリキュラム開始年度（西暦下2桁）＋連番（学部、研究科における学科・課程、コースの順番。学部、研究科が1コースの場合、あるいは共通科目の場合はゼロ）

部局	学科・課程	コース、専攻等	コード
教育学部	学校教育課程	小中一貫教育コース	161
	学校教育課程	教職実践基礎コース	162
	学校教育課程	発達支援教育コース	163
医学部	医学科		041
	看護学科		042
工学部 (2020年度まで)	環境応用化学科		121
	社会環境システム工学科		122
	環境ロボティクス学科		123
	機械設計システム工学科		124
	電子物理工学科		125
	電気システム工学科		126
	情報システム工学科		127
工学部 (2021~2024年度)	工学科	応用物質化学プログラム	211
		土木環境工学プログラム	212
		応用物理工学プログラム	213
		電気電子工学プログラム	214
		機械知能工学プログラム	215
		情報通信工学プログラム	216
工学部 (2025年度から)	工学科	化学生命プログラム	251
		土木環境プログラム	252
		半導体サイエンスプログラム	253
		電気電子システムプログラム	254
		機械知能プログラム	255
		情報通信プログラム	256
農学部 (2024年度まで)	植物生産環境科学科		101
	森林緑地環境科学科		102
	応用生物科学科		103
	海洋生物環境学科		104
	畜産草地科学科		105
	獣医学科		106
		グローバル人材育成コース	151

農学部 (2025 年度から)	農学科	動植物資源生命科学コース	251
		森林環境持続性科学コース	252
		海洋生命科学コース	253
		応用生命化学コース	254
	獣医学科		256
地域資源創成学部	地域資源創成学科		160
教育学研究科	専門職学位課程	教職実践開発専攻	200
看護学研究科	修士課程	看護学専攻	140
工学研究科 (2023 年度まで)	修士課程（工学専攻）	環境系コース	161
		エネルギー系コース	162
		機械・情報系コース	163
工学研究科 (2024 年度から)	修士課程（工学専攻）	先端情報コース	241
		環境コース	242
		電気・半導体コース	243
		機械コース	244
農学研究科	修士課程（農学専攻）	植物生産環境科学コース	141
		森林緑地環境科学コース	142
		応用生物科学科コース	143
		海洋生物環境科学コース	144
		畜産草地科学コース	145
		農学国際コース	146
地域資源創成学研究科	修士課程	地域資源創成学専攻	200
医学獣医学総合研究科	修士課程	医科学獣医科学専攻	141
	博士課程	医学獣医学専攻	101
農学工学総合研究科	博士後期課程	資源環境科学専攻	071
	博士後期課程	生物機能応用科学専攻	072
	博士後期課程	物質・情報工学専攻	073
畜産別科			000
基礎教育部 (2023 年度まで)			140
教養教育部門 (2024 年度から)			240

③学問分野

宮崎大学附属図書館が採用する図書分類表に基づきコードを振ります。原則として、日本十進分類（NDC、別添資料：第 10 版を基本とする）の第 2 次区分（末尾ゼロ詰め 3 桁）を利用します。ただし、学部、研究科の判断により、第 3 次区分（3 桁）の使用を可とします。

医学分野においては、医学分館の採用する米国国立医学図書館分類（NLM、別添資料）を利用します。コードは末尾 * 詰め 3 桁とし、基礎医学 Q**、臨床医学 W**、看護学 WY* というような簡易コードの付与も可とします。

採用する分類法を区別するため、日本十進分類を a、米国国立医学図書館分類を b とし、学問分野コード末尾に付与します。（分類によらない場合は*詰めします。）

（注）

- ・分類が不明の場合は、日本十進分類法（小細目表）や、附属図書館に照会します。
- ・融合科目は、別途コード（Z**）を設定します。
- ・対応するコードがないものについては、別途コード（***）を設定します。

④レベル（学修の段階）

学修の段階	参考	コード
学部入門レベル	【学部生用】 主に基礎教育科目及び1年次生を対象とした科目	1
学部初級レベル	【学部生用】 主に2年次生を対象とした科目	2
学部中級レベル	【学部生用】 主に3年次生を対象とした科目	3
学部上級レベル	【学部生用】 主に4年次生を対象とした科目	4
学部上級レベル	【学部生用】 主に5～6年次生を対象とした科目	5
大学院（修士・専門職）レベル	【大学院生用】 基礎的な内容の科目	6
大学院（修士・専門職）レベル	【大学院生用】 発展的な内容の科目	7
大学院（博士）レベル	【大学院生用】 高度専門的な内容の科目	8
レベル分けが困難な科目 （海外留学、インターンシップ等）		0

⑤科目区分

数字2桁。各部局で適宜設定します。カリキュラムの順次性、体系性を示す工夫をします。

⑥授業形態

授業形態	コード
講義	1
演習	2
実験	3
講義・演習	4
講義・実習	5
実験・実習	6
実習	7
実技	8
講義・実技	9

⑦使用言語

使用言語とは教室において使用するコミュニケーション言語とします。

使用言語	コード
日本語で行う授業	0
英語で行う授業	1
英語以外の外国語で行う授業	2
2カ国語以上の言語を併用して行う授業	3
その他	4

⑧講義コード

本学の授業科目に振られている「講義コード」5ケタを利用します。これにより、カリキュラム科目と授業科目の対応づけを行います。なお、公表する科目ナンバリングコードにおいては省略します。

5. 科目ナンバリングコードの公表

- a. 科目ナンバリングコードの意義と内容について、キャンパスガイドで説明し周知します。
- b. 科目ナンバリングコードはシラバスに記載し、このコードによって検索が可能となるようにします（ただし、システムの改修が必要となります）。

6. 科目ナンバリングコードの点検

（1）科目ナンバリングコード作成率の点検

- a. 大学教育委員会は、年度毎に全授業科目について、作成状況を点検します。
- b. すべての部局において、科目ナンバリングコード作成率が 100% になるように厳密に管理します。

（2）科目ナンバリングコードに記載されている情報の適切さの点検

- a. 科目ナンバリングコードが適切に付与されているかを点検します。
- b. 科目ナンバリングにより、教育課程の順次生、体系的が確保されているかを点検します。

（3）科目ナンバリングの活用状況の点検

- a. 学生による授業アンケートを通して、学生の科目ナンバリングの活用状況を点検します。
- b. 教員に対するアンケートを通して、教員の科目ナンバリングの活用状況を点検します。

（4）点検のスケジュール

（授業開始前）

時期	内容	担当
10 月～12 月	次年度開講科目情報の準備	学び・学生支援機構、部局
2 月～ 3 月	シラバスへの記載	学び・学生支援機構、部局
2 月～ 3 月	キャンパスガイドへの記載	学び・学生支援機構、部局

（授業開始後）

時期	内容	担当
4 月～5 月	科目ナンバリング作成状況（作成率）の点検	教育企画部門
5 月	科目ナンバリング未作成科目の報告	大学教育委員会
5 月	科目ナンバリング作成率 100% の達成	大学教育委員会、部局
5 月	科目ナンバリングの適切さの点検	教育企画部門
5 月	科目ナンバリングの適切さの改善	部局、教員